

千葉県北西部に位置する、人口約20万人の流山市。「母になるなら、流山市」として子育て支援を積極的に進めてきた地域。人口増税収増など成果を出しています。

つくばエクスプレス「流山おおたかの森」駅前広場を官民連携で整備

南口都市市場は、民間開発会社による賑わい機能の整備や広場に隣接する商業施設との一体的なイベント運営・維持管理の実施など官民連携によって整備したものです。

南口から駅前の広場を見下ろすと、温かみのある色調で統一されたショッピングセンターと緑が連なります。人気ショップやフィットネス、映画館、郵便局、病院などがあり、北口には市の出張所も備え、殆どの用事を駅周辺で済ませられます。

広場全体は十分な広さがあり、車も入らない安全な空間。週末は多世代が集まり、イベントなどで大賑わいだそうです。

森の中の木の学び舎「おおぐろの森中学校」

今年4月に開校した生徒数590人の流山市立「おおぐろの森中学校」も訪れました。千葉県産の木材を積極的に使用し、木材産業の活性化にも貢献しています。

校舎内は木の雰囲気を生かした落ち着いた色調と広々とした空間。体育館も高さ9.5m、バスケットボールコートが2面取れる大きさ。アクティブラーニングルームがあり、椅子やテーブルは人数に応じて自在に配置できる仕様です。

ICTは最新のものを導入して活用。校長先生も、YouTubeで生徒たちにメッセージを配信していました。教育内容もこれまでの「ティーチ」から、自主的な学びを導く「コーチ」へ。教員も生徒も人間力の向上を目指す、変革を恐れず改革していく学校など、積極的に新しいものに取り組む方針でした。

●視察を終えて

地域活動が盛んな逗子市。流山市の様に駅前を賑わいの拠点にできればさらに多くの交流が生まれる、教育にも逗子市の自然や市民力をもっと生かせると感じました。流山市にはマーケティング課という、市の知名度アップやブランド化をイベントやメディアを使ってアピールする所管があるとのこと。こうした組織を作ることも念頭に、自然や人など逗子市の強みの活用や、トータルな魅力の発信に取り掛かっていきたいと思いました。



NIJIRO MIRAI Vol.3



【議会報告】

6月3日から17日の期間に行われた令和4年第2回逗子市議会定例会。私は6月16日に一般質問を行いました。

4月に議員生活がスタートし、視察、勉強会出席、地域活動への参加、市民の方々との対話、他地域の議員との交流などを行ってきました。視察や他地域の情報を見聞きして感じたのは、逗子市には積極的に暮らしを楽しんでいる人が多く、新しいことにチャレンジしやすい風土であること。そのニーズに応えると同時に、生きづらさを抱えた時の支援体制を整えなければと思いました。選挙期間も含め皆様からいただいた相談や意見、要望を基に行った一般質問。提案に対して理解はいただけましたが、実現に向けて引き続き働きかけていきます。

●市政に対するご意見お寄せください

逗子市久木 4-17-12 ☎090-1022-6062
kuwaharayasue2022@gmail.com



子育て支援30年

地域福祉20年

くわはら
桑原やすえ

1期目

逗子市議会議員

教育民生常任委員会副委員長

桑原やすえ
公式HP



【一般質問概要】

【1】公立小中学校のいじめ問題

逗子市では令和3年度に「いじめ問題対策連絡協議会条例」「いじめ防止基本条例」が制定されました。今年度から協議会がスタートするこのタイミングで現状を見直し、新たな手も打っていく必要があると訴えました。

コロナ禍、給食の黙食やマスク着用などで子ども同士の関係性を築きにくい時代。懇談会や行事などが開催されず、保護者の交流する機会も減っています。保護者同士のつながりが薄れると、問題が起きた時の連携が取りにくくなります。親が孤立して不安になれば、子どもにも影響します。

日常の中に親子で様々な世代との交流ができる機会や場があることが重要です。多角的に取り組む必要があると、市長に考えを伺いました。



提案

- ① 子ども達に加え保護者、教員、地域住民も人権や多様性尊重を学ぶ機会を。
- ② 教育部として市役所5階に子育て部門が一元化されて5年。先進的な他の地域の事例も参考に、さらなる連携や改革を。

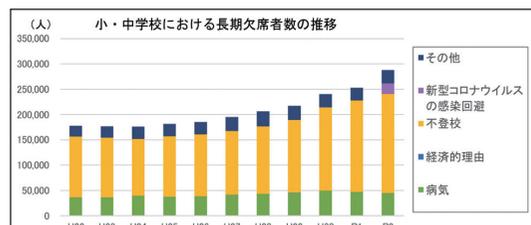
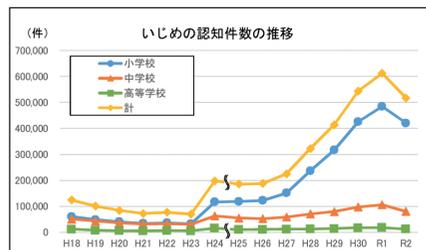
〈市長より〉

未来を担う子どもの育成は何より大切。一度には難しいが優先順位を見極めて子育て支援に係る政策の実現に向けて市政運営にあたっていきたい。

〈教育長より〉

- ① 専門家から学ぶプログラムの実施について協議会で議論協議していく。
- ② 一元化は以前に比べてスムーズな連携と速やかな情報共有はできてきている。今以上に部内の連携が強まり、それぞれの課が機能するように改善の視点が必要と考える。

参考資料：文部科学省 令和2年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果の概要（全国調査）



【2】ICT（情報通信技術）教育の推進

逗子市の公立小中学校では1年以上前に校内無線LAN及び児童・生徒・教員に一人1台タブレットが導入されました。

タブレットを使いこなすことで知識や情報を取り入れるスピードは格段にアップ。以前より学びあい、興味を深め発展させる時間を取れるようになりました。しかし先進的に取り組んでいる学校や地域との格差は既に生まれています。格差を埋めるためには、全ての教員が一定レベルのICTスキルを身につけなくてはなりません。



提案

逗子らしい教育を推進するためにも、今の時点で教員間のスキルの格差を検証し、教育情報化推進計画を立て、専門家による継続的なサポートを行っていく必要がある。

〈教育長より〉

今年が学校教育総合プラン策定の時期でもあるので、計画を練っていく。他の先進的事例も取り入れて進めていく。

【3】青少年健全育成事業と子ども議会について

先の見えない社会の中で日本の多くの子ども・若者は不安を高め、15歳から39歳の死因の第1位を自殺が占める状態が続いています。2020年ユニセフの国際調査によると日本の子どもは「身体的健康」では38ヶ国中1位なのに対して「精神的幸福度」では37位。逗子市でも不登校、いじめ、ひきこもりなど大きな課題です。多様な生き方の理解や、生きづらさを抱えている子どもが安心して過ごせる居場所が求められています。

逗子市の現状と課題

青少年の居場所としての体験学習施設スマイルは十分機能していません。コロナワクチン接種会場になっていることもありスポーツルームは8月末まで使えず、さらに利用者数は減少傾向。平成28年度延べ人数27,143人→29年度25,731人→30年度14,704人。コロナ禍で令和2年度には1,256人にまで落ち込んでいます。

提案

青少年の声を把握しスマイルの活性化、昨年度から始まった中学生対象の子ども議会の発展を。

〈市長より〉

体験学習施設スマイルは子ども達の個性を輝かせる居場所として、また多世代交流もできる場となるよう検討していきたい。

逗子市議会 議会中継
こちらからご覧いただけます

